

### 第3回 短期入所床に関するシステム検討ワーキング 検討結果

令和4年8月9日（火）

#### 1 システムの仕様について

##### （1）論点1 システムの目的（変更なし）

これまでのワーキングの結論 ⇒ 一般的な予約申込手続の支援ではなく、緊急利用（短期入所ベッド確保事業による利用を除く。）のための申込手続の支援を目的とする。

##### （2）登録する（表示する）情報について

##### ア 論点2 施設側の状態を表す符号（変更なし）

これまでのワーキングの結論 ⇒ 「○△×」の3種類とする。

##### ※ 各符号の意味

○：電話での確認が必要（キャンセルが出た場合など、通常より利用できる可能性が高いと施設側が判断している状態）

△：電話での確認が必要（初期値：何も登録していない場合は、参照画面に△が表示される。）

×：満床など利用できる見込みがない状態

注1：このシステムは「×」の登録を基本とするものであるが、施設側の判断で「△」とメリハリをつけるため「○」を登録できることとした。

注2：「○」を登録した場合は、システムの信頼にもかかわるため、特にこまめに更新を行うなど、責任をもって管理することが必要

注3：各符号の持つ意味について誤解を招かないよう、参照画面に各符号の説明を明記

##### イ 論点2-2

居室タイプが複数ある施設について、情報の登録をタイプ別に行うか？

これまでのワーキングの結論

⇒ 空床利用を含め、ショートで利用する居室のタイプが複数ある施設についてはIDを複数発行し「多床室」「個室」それぞれの画面から登録し、表示することとする。

##### 〔第3回ワーキングでの検討内容〕

居室タイプ別に情報を管理することで業務負荷が増し、更新頻度等が低下するなどのデメリットも考えられることから、居室タイプ別管理の是非について検討

##### 〔第3回ワーキングの結論〕

間もなくシステムが仮稼働するので、8月15日以降、ワーキング

委員及び川崎市介護支援専門員連絡会においてシステムの動作確認を行うとともに、一部の施設は居室タイプ別の管理を行い、実際の業務負荷等を検証する。

ウ 論点3 性別の登録について（変更なし）

これまでのワーキングの結論

⇒ ×○を登録する際に、例えば「女性部屋のみ満床」など、性別を分けて表示したい場合は、併せて性別を登録することができる機能を持たせる。

（3）参照画面について

ア 論点4 表示するカレンダーの範囲（変更なし）

これまでのワーキングの結論

⇒ 毎月16日に翌月分を表示（最長1月半先、最短半月先まで表示）

イ 論点5 「○△×」以外で表示する情報は？（変更なし）

これまでのワーキングの結論

⇒ 各施設のURL（説明ページへのリンク）について、可能な場合は原則として掲載する（リンクを埋め込む）こととする。

ウ 論点6 各施設の基本情報（個室・多床室の別、床数、送迎の範囲など）の扱い

これまでのワーキングの結論

⇒ 参照画面に表示するのではなく、別途、一覧表を作成し、公開する。ただし、「対応可能な医療行為」については事前に理事会に諮る必要があるとの判断から、継続協議とする。

〔第3回ワーキングでの検討内容〕

「川崎市特別養護老人ホーム短期入所床一覧」の項目について検討

〔第3回ワーキングの結論〕

一覧表の「担当者」の項目について、「担当者の氏名」以外に「組織の名称」等も記載できるよう、項目名を「担当」に改めた。

※ 参照：川崎市特別養護老人ホーム短期入所床一覧（修正版）

エ 論点7 条件を指定して参照画面に表示する施設を絞り込む機能について（変更なし）

これまでのワーキングの結論

⇒ 次の条件を指定して、絞り込む機能を搭載する。  
「区」及び「個室・多床室の別」

## 2 システムの運用について

論点8 登録（更新）はどのタイミングで行うか？

これまでのワーキングの結論

- ⇒ 1 毎月15日までに翌月分を登録する。（16日に翌月分が表示される。）
- 2 登録した情報の更新は随時行うが、過大な負荷とならないよう、可能な範囲での努力義務とする。

〔第3回ワーキングでの検討内容〕

登録した情報の更新は努力義務とし、可能な範囲で随時行うこととした結論は維持するが、特に「月末」については、毎登録期限（15日）の中間に当たるため、「更新を行うことを推奨する日」としたらどうか？

〔第3回ワーキングの結論〕

「月末」は特に業務が集中するため、数日間の幅を持たせて更新を推奨することとした。

※ 仮稼働中のシステムでは、「25日から月末までの間に1回は更新を行う。」ことを基本に業務負荷を検証することとしています。

## 3 その他

論点9 緊急に利用したい方の情報を利用者（ケアマネージャ）側から複数の施設宛に発信する仕組みについて（変更なし）

これまでのワーキングの結論

⇒ 次の問題が考えられるが、条件を整えば連絡手段としてメリットがあるので、システム稼働後の検証の中で、連絡手段の課題を精査した上で、改めて検討する。

（1）この仕組みを利用するための条件（緊急性の要件など）を設定する

など、何らかのルールを定めないと情報が過多になり、本当に必要な情報が埋もれてしまう可能性がある。

- (2) 施設側が情報の到達を即時に確認できる仕組みや施設側のレスポンス(既読の有無や脈あり・脈なしなど)を利用者（ケアマネージャ）側が確認できる仕組みがないと、即時性の点で電話連絡に劣ることも想定される。